

平成28年度 学校評価報告書

神津島村立神津中学校長
富田 聖和

1 自己評価

(1) 自己評価の各項目に対する評価結果及び成果と課題

	経営目標	評価結果 4段階		成果と課題	
		第1回	第2回		
1	連携教育	1.2	1.5	成果	授業や生徒会、部活動、地域活動で、交流ができた。
				課題	連携の趣旨の理解と時間の確保及び調整をする。
2	学力向上	2.3	2.8	成果	小テストや繰り返し問題で、基礎が身に付いてきている。
				課題	学習意欲や思考力、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
3	人権教育	2.4	2.7	成果	協力や思いやる行動ができています。人権スピーチで啓発できた。
				課題	きつい言葉や態度がある。生徒を敬称で呼ばない場面がある。
4	特別支援教育	2.9	3.1	成果	一人一人に合わせた教材や体験活動、通常級との連携で達成感が高まった。
				課題	指導の専門性や効果検証の実施、教室環境のUD化をする。
5	心の教育	2.3	2.5	成果	挨拶や相手を思う生徒が増えている。道徳で考えさせている。
				課題	生徒自ら挨拶をし、相手を思う言葉をかける。考える道徳の実施。
6	オリパラ教育 (体力向上)	2.3	2.7	成果	世界の国々の国旗や衣食住の様子を学び、障害者スポーツを体験した。
				課題	オリンピックと関連付ける教科の取組と時間の確保が必要である。
7	進路の実現	1.9	1.7	成果	P T Aや神津高校、地域の協力を得た体験授業ができた。
				課題	総合的な学習の時間の計画的な実施と時間の確保が必要である。

(2) 自己評価結果の成果と課題に対する改善策

	経営目標	改善策
1	連携教育	<ul style="list-style-type: none"> ・連携教育の必要性については、島しょ教育の理解と合わせて再認識を図る。 ・時間の調整等は、連携コーディネータ、教務部など組織的に取り組んでいく。
2	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の工夫や単元の指導計画・評価計画を見直し、関心・意欲及び思考力を育む。 ・全校体制で家庭学習の習慣化を図り、家庭学習の内容や方法を見直す。
3	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・その場での言葉の指導や道徳で心を育てる。敬語を話す機会を作る。 ・教師の授業力を向上させることと人権意識を高める
4	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を超えての教員の専門性の連携を図る。指導の効果については評価の工夫をする。 ・教室の黒板や掲示物等、環境整備と整理整頓をする。
5	心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への個別の働きかけをする。自分が大切にされている満足感を体験させる。 ・議論する、考える道徳授業の指導計画、指導の工夫を組織として構築する。
6	オリパラ教育 (体力向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統・文化、国際理解教育をオリンピック・パラリンピック教育と関連付けて授業の計画を立て、実施する。
7	進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の全体を通して、意図的・計画的な年間指導計画を作成していく。

(3) 保護者アンケート結果からの成果と課題

①成果

- ・相手を思うやさしさを育成していることについて、評価が90%と高く、友達に思いやりをもって接していることができている。
- ・自ら挨拶をする生徒を育成していることについて85%代と高く、挨拶をする生徒が増えてきている。
- ・日常的な体力向上については82%と高く、体力向上に取り組めている。
- ・教師の取組については熱心に指導し、子供たちが充実した学校生活を送っているという意見がある。

②課題

- ・既習事項の学習内容については、64%と低く、学習内容の理解が不十分である。
- ・主体的に学ぶ学習意欲については、69%と低く、学習意欲の向上が課題である。
- ・読書習慣については、64%と低く、朝読書の成果が習慣にまで至っていない。昨年は47%。
- ・家庭学習の習慣については、62%で低い。家庭学習としてご家庭との協力、宿題の出し方など工夫をする必要がある。
- ・主体的に学ぶ意欲については、68%と低い。学習意欲を引き出す授業展開が課題である。
- ・部活動の取組、達成感や成功体験による自信、学校・学年だよりやホームページの取組等は70%代であり、今後、さらに充実させて取組の質を高めていく。

(4) 生徒アンケート結果からの成果と課題

①成果

- ・日々の学習内容については82%と理解している生徒が多い。
- ・思いやりをもって友達と接しているのが98%で相手のことを良く考えていることがわかる。
- ・自ら挨拶をするのが82%で、意識をして挨拶をすることができている。
- ・部活動に目的をもって取り組んでいるのが82%で、充実させているのがわかる。
- ・学習意欲については72%となり、昨年の60%と比較すると向上してきている。

②課題

- ・家庭での学習習慣は40%と特に低く、家庭学習の習慣化が課題である。
- ・自分に自信をもつことについては68%と低く、成功体験を積み重ねることが必要である。
- ・学年だよりを読み、日常生活に活かしているのは48%と低い。
- ・読書習慣については、68%で低い。読書活動についての取組の工夫が必要である。
- ・体力向上については66%と低く、日常的な運動の取組が必要である。

(5) 学校評価パネルディスカッション結果からの成果と課題

参加者：学年主任1名、担任1名、副担任1名、PTA会長1名、PTA副会長1名、民生児童委員1名、生徒各学年1名、生徒会長

①成果

- ・数学の少人数指導は、クラスが分かれていて質問しやすい展開となっている。
- ・学校行事については、楽しく充実したものとなっている。
- ・弁論発表会や海浜教室は昔からあり、続けて欲しい。
- ・部活動は一生懸命取り組み、充実して楽しい。
- ・神津島について自然や文化など興味をもっており、郷土愛が育まれている。
- ・学校生活は充実していて、楽しく過ごしている。
- ・

②課題

- ・家庭での学習時間は1時間程度で、学習のしない日もある。
- ・家庭での学習よりも学校で放課後取り組むこともある。
- ・挨拶や言葉づかい、礼儀についてはあまり意識して取り組んでいない。
- ・敬語については、大人になって島を出てから必要になるので、使えるように取り組んで欲しい。
- ・将来の夢や目標をもっていない生徒がいる。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成

	職名	所属等
1	評価委員	中学校PTA会長
2	評価委員	中学校PTA副会長
3	評価委員	都立神津高等学校長
4	評価委員	栄養士
5	評価委員	南駐在所長
6	評価委員	青少年委員
7	評価委員	民生・児童委員

(2) 学校関係者評価委員会の主な活動

月日	会場	協議会内容等
平成28年6月28日	生きがい健康センター	平成28年度教育方針、学校の状況、意見交換
平成28年9月23日	神津中学校 図書室	今後の学校経営、自己評価結果、学校関係者の意見
平成29年1月24日	神津中学校 図書室	今後の学校経営、自己評価結果、学校関係者の意見
平成29年2月16日	開発総合センター	評価委員会報告、今年度のまとめと来年度に向けて

(3) 学校関係者評価

A：よくできている B：だいたいできている C：あまりできていない D：まったくできていない

	経営目標	評価コメント	評価
1	連携教育	・授業時数の確保は難しいが、連携や交流はできる限り行う。 ・小学校、高校の教員が仲良くなり、計画的に実施していく。	B
2	学力向上	・家庭学習の習慣や意欲をもたせて学習に取り組ませる。 ・お互いに高め合い、競い合いながら学ばせる。スピーチの場数を踏ませる。	B
3	人権教育	・自己理解を深める手法の開発が必要である。 ・尊敬語や謙譲語の正しい言葉づかいの指導を日常的に行う。	B
4	特別支援教育	・高校と特別支援教育の合同研修を行う。 ・高校にも将来、通級指導学級が設置される。中学校との連携を図る。	B
5	心の教育	・挨拶は教員からも自発的に行う。地域全体で考えていく。小中高で連携して取り組む。 ・道徳は生徒同士で議論させるのが大事である。	B
6	オリパラ教育 (体力向上)	・オリンピック、パラリンピックに生徒たちの興味をもたせていく。 ・オリパラ教育を国際理解教育や障害者理解教育に繋げていく。	B
7	進路の実現	・村の人や関係機関と様々な交流があり、いい経験になっている。 ・島内では限りがあるので、修学旅行等の島外での活動の工夫が必要である。	B

3 今年度の学校経営計画の状況と来年度に向けての取組について

今年度の学校経営は、連携教育、人権教育、特別支援教育を3本柱として取り組み、これらを充実させることで結果として学力向上につなげてきた。連携教育については、地域との連携については比較的取り組むことができたが、小学校との連携については、依然として美術や音楽、家庭科、特別支援教育、性教育等の一部の教科・領域による連携にとどまっている。連携教育の必要性や重要性を小中の教員で理解を図っていくことが求められる。

学力向上については、基礎・基本の既習事項を補習等も含めて繰り返し指導を重ねている。しかしながら、小学校段階からの既習事項が身に付いていないなど、課題が大きく、定着までには至っていない生徒がいる。個別の支援が必要であり、家庭とも連携しながら取り組んでいく。

人権教育については、東京都の4つの指定校一道德教育推進拠点校、伝統・文化教育推進校、オリンピック・パラリンピック教育推進校及び重点校と関連付けて取り組んだ。研究主題である「自他の気持ちを尊重し、相手を思いやる心と勇気を育む」に、障害者理解を重点に置きながら様々な人権課題を取り上げて迫った。来年度は、人権課題を焦点化・重点化を図り、研究発表に向けて取り組んでいく。

特別支援教育については、通常の学級と特別支援学級との連携に重点を置いた。生徒の交流や教員の交流を図り、

学校全体で特別支援教育の体制を構築した。今後は、特別支援部を立ち上げ、専門化を図るとともに、通常級の教員の専門性を活かした支援及び交流を図っていく。

心の教育については、生徒の挨拶がだんだんと広がってきている。教員も自ら挨拶を何度も繰り返しながら、生徒自から挨拶をするように高めていく。考える道徳、議論する道徳を取り組んできた。全校道徳も実施するなど工夫を凝らしているが、全学年に指導方法を行きわたらせるには、組織的に取り組む必要がある。

オリンピック・パラリンピック教育については、オリパラ習慣を設けて、重点的に取り組み、生徒への意識化を図ってきた。3年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらに生徒への参加意識を高め、神津島から東京オリンピック・パラリンピックに関わる生徒を育てていく。

進路の実現については、地域や村の関係機関の支援・協力を得ながら取り組んできた。キャリア教育の視点に立ち、様々な職業に触れさせながら、将来、島を出て生活していくビジョンを形成させていく。

4 学校評価第三者評価の予定

(1) 日 時 平成29年3月7日(火) 午前9時40分から午後3時まで

(2) 会 場 神津島村立神津中学校校長室

(3) 講 師 大学教授

(4) 内 容

ア 学校経営状況の説明

イ 学校の報告(取組・成果・課題)ー教務部、生活指導部、進路指導部、保健指導部

① 学校評価システムについて(教務主任)

② 教務部 (教務主任)

教育課程実施報告。

③ 生活指導部 (生活指導主任)

校内外の生活、教育相談、安全・防災指導、いじめの指導について。

④ 研究について(代理で教務主任)

人尊校、道徳教育推進拠点校、伝統文化推進校、オリパラ教育重点校の取組について。

⑤ 保健指導部 (保健主任)

来室状況、けが、感染症、発育測定、歯科保健活動、関係機関との連携など、保健活動の報告。

(5) 指導・講評

- ・学校評価では、成果、特に課題について明確にしていき、次年度をさらに充実させるための改善につながるよう意識するとよい。
- ・課題が見つかることは悪いことではない。時代も子供も変化するものなので、学校教育も毎年何らかの改善は必要はず。
- ・学校評価の資料の中で評価の数値が大きく動いたものに着目し、その理由を見極め、成果と課題を明確にする必要がある。(本校では今年度、「学力向上」について)
- ・2回とも数値が低い部分については、なぜかの分析とともに、短期目標、具体的な手立て、評価規準が適切かなどの検証も必要。(本校では今年度、「連携教育」について。連携教育が必要であり、長期目標はよい。)
- ・関係者評価をもっと有効活用できるのではないか。学校が考える課題や疑問などを具体的に示し、意見をもらうなど。提供する情報や資料で、関係者の反応は変化するものである。
- ・次期学習指導要領を見据えた授業改善への取組も強く求められている。従来の「覚える」ための授業と、「考えさせる」授業(いわゆるAL)の両立。バランスを考えなくてはならない。
- ・次年度の研究発表では、日頃の取組を丁寧に拾って発表するとよい。発表のための取組や研究ではなく、日々の活動が子供達の変容につながることに重点を置くわけであるから。
- ・教員のまとまりを大切にする。いろいろな考え方があっても方向性を一つにする。職員連絡会や打ち合わせで個々の力が終結できるように、考えを共有すること。